

2020 横浜スポーツ学術会議

募金趣意書



2020 年横浜スポーツ学術会議 組織委員会
日本学術会議健康・生活科学委員会健康・スポーツ科学分科会
日本スポーツ体育健康科学学術連合 (JAASPEHS)
一般社団法人日本体育学会

ご挨拶

2020 横浜スポーツ学術会議 会長
阿江通良，深代千之

2020 年 9 月 8 日から 12 日までの 5 日間、ICSSPE の協力を得て 2020 横浜スポーツ学術会議が、2020 年夏季オリンピック・パラリンピック大会に伴って横浜で開催されます。日本での開催は半世紀ぶりになります。開催地の横浜は東京に隣接しており、成田や羽田という日本の代表的な国際空港からのアクセスも非常に容易です。また、横浜は長い鎖国を続けていた日本を海外に開く拠点となった歴史的かつ国際的な都市でもあります。

2020 横浜スポーツ学術会議のテーマは **Contributing to Sustainable World** です。現在、地球や世界には様々な技術革新に伴う問題が山積しています。幸い、我々の関わっている体育・健康・スポーツは、人々を育て高め、身心の健康を維持し、そして楽しみを分かち合うという、誰もが受け入れられる多くの価値を持っています。今こそ、様々な分野の人々が世界中から参集して意見交換そして議論して、その価値を再認識するだけでなく、知恵を出し合って共有価値を創造し（**Creating shared value**），**Contributing to Sustainable World** しようではありませんか。

皆様に横浜でお会いできることを心から願っております。

2020 年横浜スポーツ会議組織委員会
組織委員長 来田 享子

2020 年横浜スポーツ会議を 2020 年 9 月 8 日（日）～9 月 12 日（水）の日程で、神奈川県横浜市のパシフィコ横浜ノースにて開催することとなりました。

この会議の起点は、1964 年オリンピック東京大会にあるとされ、以来、開催形態や名称は変化しながらも、大会開催国の都市において、体育学、スポーツ・健康科学の国際規模の学際的科学会議として継続されてきました。

2015 年に全面改定されたユネスコの「体育・身体活動・スポーツに関する国際憲章」では、体育・身体活動・スポーツは、個人やコミュニティ、社会全体に幅広い恩恵をもたらすことができること（**Physical education, physical activity and sport can yield a wide range of benefits to individuals, communities and society at large**）が強調されました。同じ年に国連では「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」が採択されました。このアジェンダには、17 の国際目標の達成に向け、スポーツが重要な役割を果たすことが明記されています。

開催準備中の会議は、“**Contributing to a Sustainable World**”（多様な人々が共に生きる世界をめざして：体育・健康・スポーツ科学の貢献）をテーマとし、身体活動やスポーツを通じ、より良い社会を築き、世界の平和に貢献する国際的なレベルでの議論を深めることをめざしています。国際社会のグローバル化にともない、メガ・スポーツイベントが開催されるようになったことを受け、スポーツを取り巻く社会環境は激変しています。会議では、スポーツに関わるテクノロジー、人権課題、スポーツの価値の有効な活用、スポーツ・ビジネスの発展等、様々な学問分野、様々な社会的立場の人々の対話が促進されることにより、未来に貢献することが期待されます。

若い研究者である大学院生・学生が参加しやすいよう、費用を約半分に設定しました。この会議は、あなたに世代を超えた対話の機会を提供します。どうか、スポーツを通じて持続可能な社会の未来をめざす国際的な研究ネットワークの一員になってください。

1. 会議の名称

和文名： 2020 横浜スポーツ学術会議
英文名： The 2020 Yokohama Sport Conference

2. 主催・後援

主催

一般社団法人日本体育学会

日本スポーツ体育健康科学学術連合 (JAASPEHS)

日本学術会議健康・生活科学委員会健康・スポーツ科学分科会

(一般社団法人日本体育学会を代表組織とする)

主管

2020 横浜スポーツ学術会議 組織委員会 (主催 3 組織による連合組織)

協力： International Council of Sport Science and Physical Education (ICSSPE)

後援： スポーツ庁、日本スポーツ振興センター (JSC)、日本スポーツ協会 (JSPO)、日本オリンピック委員会 (JOC)、日本障がい者スポーツ協会日本パラリンピック委員会、笹川スポーツ財団、全国大学体育連合、日本フィットネス産業協会、神奈川県、横浜市、神奈川新聞、tvk (テレビ神奈川)

3. 開催時期

2020 年 9 月 8 日 (火) ～9 月 12 日 (土) [5 日間]

4. 開催場所

パシフィコ横浜 ノース

〒220-0012 神奈川県横浜市西区みなとみらい 1 丁目 1-1

5. 参加予定者数

2,500 名～ (国内 1,000 名～/海外 1,500 名～)

[参加国・地域]

アイルランド、アルゼンチン、アルバニア、イスラエル、イタリア、イラク、イラン、インド、インドネシア、ウクライナ、英国、エジプト、オーストラリア、オーストリア、オマーン、オランダ、ガーナ、カナダ、韓国、キューバ、ギリシャ、クウェート、グルジア、クロアチア、ザンビア、シオラレオネ、シンガポール、ジンバブエ、スイス、スウェーデン、スペイン、スリランカ、スロヴァキア、台湾、チェコ、中国、デンマーク、ドイツ、トルコ、ナイジェリア、日本、ニュージーランド、ネパール、ノルウェー、パキスタン、バルバドス、ハンガリー、バングラディッシュ、フィンランド、ブラジル、フランス、ブルガリア、米国、ベネズエラ、ベルギー、ポーランド、ポルトガル、香港、マダガスカル、マルタ、マレーシア、南アフリカ、メキシコ、モナコ公国、モルジブ、モンゴル、ヨルダン、ラトビア、リトアニア、ルーマニア、ルクセンブルグ、レバノン、ロシア、他

6. 会議の意義と開催目的

オリンピックの年に4年ごとに大規模な国際スポーツ科学会議が開催されるようになったのは、1964年東京オリンピックの時が最初であると言われています。2020年に再び東京でオリンピック・パラリンピックが開かれるこの機に、国際スポーツ科学・体育協議会（英：International Council of Sport Science and Physical Education, 略称：ICSSPE）の協力のもと、日本でこの歴史を継承する国際会議を開催し、当該分野と人間社会への発展に大きく貢献することを目指して、本会議は開催されます。

ICSSPEは身体活動やレクリエーション・スポーツの科学研究を促進するために設立された国際機関です。1958年、パリにおいて国際スポーツ・体育協議会（ICSPE）として発足し、1982年に現名称となりました。ICSSPEには現在、約230のスポーツ・体育・スポーツ科学関係の国際・国内団体が加盟し、ユネスコ、国際オリンピック委員会（IOC）、世界保健機構（WHO）、国際体力医学会（FIMS）等とも密接な協力関係のもとで活動しています。ICSSPEは数百万人を数える当該分野の世界最大のネットワークをもって、学際的な協力関係を創造し、調査研究・教育・健全なスポーツ活動の提唱を通して人間社会の発展に寄与しています。

国際会議の開催が珍しくなくなった今日でも、本会議のような体育・身体活動・スポーツに関係する多分野・多業種の専門家が一堂に会し共同して、複雑化した社会における諸課題の解決の糸口を探り、将来を展望することは、大変ユニークで貴重な機会となります。

7. 会議構成

1) テーマ

Contributing to a Sustainable World（多様な人々が共に生きる世界をめざして：体育・健康・スポーツ科学の貢献）

2) 会議使用言語

英語（一部日本語）

3) 日程案

	午前	午後	夕方／夜
9月8日（火）	エクスカーション	受付開始 開会式・基調講演	歓迎レセプション
9月9日（水）	学際テーマセッション シンポジウム 一般発表（口頭、ポスター）	学際テーマセッション シンポジウム 一般発表（口頭、ポスター）	
9月10日（木）	エクスカーション 学際テーマセッション シンポジウム 一般発表（口頭、ポスター）	学際テーマセッション シンポジウム 一般発表（口頭、ポスター）	
9月11日（金）	学際テーマセッション シンポジウム 一般発表（口頭、ポスター）	学際テーマセッション シンポジウム 一般発表（口頭、ポスター） 閉会式	ガラディナー
9月12日（土）	一般公開企画		

4) 開催の目的

プログラムは、メインテーマ“Contributing to a Sustainable World”（多様な人々が共に生きる世界をめざして：体育・健康・スポーツ科学の貢献）を具体化する多彩なカテゴリーで構成されています。基調講演に続くシンポジウムでは、分野横断的な学際性の高いアプローチや、多様な文化圏からなる国際比較を旨とし、議論の交流を深めることで新たな気づきや研究開発の創造を刺激します。さらに一般研究発表においては、カテゴリー内外の多数の研究交流の場を提供します。

8. 参画学会

＜日本スポーツ体育健康科学学術連合加盟学術団体＞

大阪体育学会
体育史学会
東京体育学会
日本アスレティックトレーニング学会
日本アダプテッド体育・スポーツ学会
日本運動疫学会
日本運動・スポーツ科学学会
日本コーチング学会
日本ゴルフ学会
日本生涯スポーツ学会
日本女子体育連盟
日本スポーツ運動学会
日本スポーツ栄養学会
日本スポーツ教育学会
日本スポーツ社会学会
日本スポーツ心理学会
日本スポーツパフォーマンス学会
日本スポーツとジェンダー学会
日本体育科教育学会
日本体育学会
日本体育・スポーツ経営学会
日本体育・スポーツ政策学会
日本体育・スポーツ哲学会
日本体育測定評価学会
日本体力医学会
日本テニス学会
日本トレーニング科学学会
日本バイオメカニクス学会
日本発育発達学会
日本バレーボール学会
日本フットボール学会
日本武道学会
ランニング学会
日本スポーツマネジメント学会

＜日本スポーツ体育健康科学学術連合非加盟学術団体＞

日本スポーツ法学会
日本未病システム学会
日本養生学会
日本臨床スポーツ医学会
日本スキー学会

9. 組織委員一覧（順不同、所属は委員会設立時）

2019年6月現在

＜主催＞2020 横浜スポーツ学術会議推進委員会

顧問	福永 哲夫	鹿屋体育大学名誉教授・前 JAASPEHS 代表 元日本体育学会会長・元日本学術会議分科会委員長
会長	阿江 通良	JAASPEHS 代表・日本体育大学
	深代 千之	日本体育学会会長・東京大学
副会長	友添 秀則	日本体育学会第一副会長・早稲田大学
	桜井 伸二	日本体育学会第二副会長・中京大学
	來田 享子	JAASPEHS 副代表・日本体育学会副会長・中京大学
監事	池上 康男	日本体育学会監事・愛知淑徳大学
	高橋 和子	日本体育学会理事・静岡産業大学

＜主管＞2020 横浜スポーツ学術会議組織委員会

組織委員長	來田 享子	JAASPEHS 副代表、日本体育学会副会長、 日本学術会議分科会幹事
副委員長	田原 淳子	日本学術会議分科会委員長、 日本体育学会特別委員会委員
委員	菊 幸一	JAASPEHS 監事、日本スポーツ社会学会
	岡出 美則	日本体育学会特別委員会委員、 日本体育科教育学会
	三木 ひろみ	日本体育学会特別委員会委員、 日本スポーツ教育学会
	須田 和裕	JAASPEHS 運営副委員長、日本体力医学会
	船渡 和男	JAASPEHS 運営委員、東京体育学会
	八木 ありさ	JAASPEHS、日本女子体育連盟
	高峰 修	JAASPEHS 監事、スポーツとジェンダー学会
	松岡 宏高	日本スポーツマネジメント学会

10. 実行委員一覧（順不同、所属は委員会設立時）

2019 年 6 月現在

<総務委員会>

委員長	來田 享子	JAASPEHS 副代表、日本体育学会副会長、 日本学術会議分科会幹事
副委員長	八木 ありさ	日本女子体育連盟
委員	石塚 創也	JAASPEHS 事務局
	高野 牧子	日本女子体育連盟

<学術委員会>

委員長	田原 淳子	日本学術会議分科会委員長、 日本体育学会特別委員会委員
副委員長	菊 幸一	JAASPEHS 監事、日本スポーツ社会学会
副委員長	宮地 元彦	日本学術会議会員、分科会幹事
委員	須田 和裕	JAASPEHS 運営副委員長、日本体力医学会
	八木 ありさ	日本女子体育連盟
	船渡 和男	JAASPEHS 運営委員、東京体育学会
幹事	田中 重陽	日本ゴルフ学会

<国際委員会>

委員	田原 淳子	日本学術会議分科会委員長、 日本体育学会特別委員会委員
幹事	ライトナー・カトリン	日本体育学会

<学術企画委員会>

委員	井谷 恵子	日本学術会議連携会員
	荻田 太	日本学術会議連携会員
	佐々木 玲子	日本学術会議連携会員
	定本 朋子	日本学術会議連携会員
	寒川 恒夫	日本学術会議連携会員
	永富 良一	日本学術会議連携会員
	三輪 清志	日本学術会議連携会員
	八木 ありさ	日本女子体育連盟（兼務）
	高野 牧子	日本女子体育連盟
	稲垣 敦	日本体育測定評価学会
	前田 博子	日本スポーツとジェンダー学会
	吉野 聡	日本体育科教育学会
	深澤 浩洋	日本体育・スポーツ哲学会
	角田 直也	日本ゴルフ学会
	木塚 朝博	日本体育学会
	佐野 昌行	日本運動・スポーツ科学学会
	佐藤 誠	日本スポーツ運動学会
	西山 哲郎	日本スポーツ社会学会
	前田 明	日本スポーツパフォーマンス学会
	掛水 通子	体育史学会

秋間	広	日本トレーニング科学学会
平田	大輔	日本テニス学会
高田	和子	日本スポーツ栄養学会
田口	素子	日本スポーツ栄養学会
難波	秀行	日本運動疫学会
桑原	恵介	日本運動疫学会
伊阪	忠夫	日本バイオメカニクス学会
田中	信行	日本アダプテッド体育・スポーツ学会
内田	匡輔	日本アダプテッド体育・スポーツ学会
工藤	保子	日本生涯スポーツ学会
作野	誠一	日本体育・スポーツ経営学会
須田	和裕	日本体力医学会（兼務）
金子	史弥	日本体育・スポーツ政策学会
齋藤	健司	日本体育・スポーツ政策学会
安松	幹展	日本フットボール学会
大友	智	日本スポーツ教育学会
関矢	寛史	日本スポーツ心理学会
井筒	柴乃	ランニング学会
野村	照夫	日本コーチング学会
船渡	和男	東京体育学会（兼務）
松岡	宏高	日本スポーツマネジメント学会
清水	美穂	日本未病システム学会
石堂	典秀	スポーツ法学会
黒川	貞生	日本バレーボール学会
今井	一博	日本臨床スポーツ医学会
広瀬	統一	日本アスレティックトレーニング学会
倉持	梨恵子	日本アスレティックトレーニング学会
越田	専太郎	日本アスレティックトレーニング学会
藤田	恵理	日本養生学会
新井	博	日本スキー学会
山根	真紀	日本スキー学会
野井	真吾	日本発育発達学会
春日	晃章	日本発育発達学会
藤井	勝紀	日本発育発達学会
石川	昌紀	大阪体育学会
松井	完太郎	日本武道学会

<財務委員会>

委員長	岡出 美則	日本体育学会特別委員会委員 日本体育科教育学会
副委員長	齋藤 まゆみ	日本体育学会会計担当理事
幹事	齋藤 うい	日本体育学会事務局

<会場・運営委員会>

委員長	高峰 修	JAASPEHS 監事、スポーツとジェンダー学会
-----	------	--------------------------

< 渉外・接遇委員会 >

委員長（接遇）	三木 ひろみ	日本体育学会特別委員会委員 日本スポーツ教育学会
副委員長（協賛）	須田 和裕	JAASPEHS 運営副委員長、日本体力医学会
副委員長（広報）	船渡 和男	日本体育学会、東京体育学会
副委員長（広報）	松岡 宏高	JAASPEHS、日本スポーツマネジメント学会

11. 事務局連絡先

2020 年横浜スポーツ学術会議 事務局
(株) コンベンションリンクージ内
TEL : 03-3263-8695 / FAX : 03-3263-8693
E-mail : yokohama2020-cl@c-linkage.co.jp
公式ホームページ : www.yokohama2020.jp

全体収支予算（6月27日時点）

【収入の部】

項目		単価	数量	合計
1	参加費収入			109,750,000
	1 参加費(案)		2,500	105,750,000
	早期事前登録		1300	
	一般参加者	45,000	700	31,500,000
	学生	20,000	300	6,000,000
★	日本体育学会会員	35,000	300	10,500,000
	事前登録		900	
	一般参加者	55,000	500	27,500,000
	学生	25,000	200	5,000,000
★	日本体育学会会員	48,000	200	9,600,000
	当日登録		300	
	一般参加者	65,000	150	9,750,000
	学生	30,000	100	3,000,000
★	日本体育学会会員	58,000	50	2,900,000
	2 その他			4,000,000
	同伴者	20,000	100	2,000,000
	一日参加者	20,000	0	0
	Banquet *	10,000	200	2,000,000
2	協賛費			19,000,000
	1 スポンサーシップ			7,500,000
★	プラチナスポンサー	2,000,000	1	2,000,000
★	ゴールドスポンサー	1,000,000	2	2,000,000
★	シルバースポンサー	700,000	5	3,500,000
	2 企業展示			6,500,000
	スペース小間	200,000	10	2,000,000
	基礎小間	300,000	15	4,500,000
	3 広告・その他			5,000,000
	広告その他(各種ロゴ掲載他)			5,000,000
3	寄附・助成金・補助金			50,000,000
	1 助成金・補助金			3,000,000
	2 寄付金			1,000,000
★	3 日本体育学会			46,000,000
収入合計				178,750,000

【支出の部】

項目		CL業務	主催業務	合計	Option
1	会議準備費	20,000,250	6,292,500	26,292,750	1,000,000
	1) 事務局費	10,178,000	0	10,178,000	0
	2) 旅費・宿泊費	50,000	3,000,000	3,050,000	0
	3) 庁費	9,772,250	3,292,500	13,064,750	1,000,000
2	会議運営費	64,956,546	46,664,647	111,621,194	15,600,000
	1) 当日人件費	7,753,371	0	7,753,371	0
	2) 旅費	489,175	11,253,427	11,742,602	2,100,000
	3) 庁費	56,714,000	35,411,220	92,125,220	13,500,000
3	事後処理費	990,000	100,000	1,090,000	0
	1) 人件費（事務局人件費）	240,000	0	240,000	0
	2) 旅費	0	100,000	100,000	
	3) 庁費	750,000	0	750,000	
6	消費税(10%で計上)	8,594,680	5,305,715	13,900,394	1,660,000
	小計		152,904,338		18,260,000
	予備費		25,845,662		

寄付金 募集要項

1. 募金名称：2020横浜スポーツ学術会議 寄付金
2. 募金目標額：50,000,000円（経費総額：178,750,000円）
3. 募金期間：2019年6月1日（土）～2020年9月7日（月）
4. 寄付の用途：2020横浜スポーツ学術会議および関連諸行事の開催、運営費に充当する。
5. 募金責任者：2020横浜スポーツ学術会議
財務委員会 委員長 岡出 美則
6. 寄付金を必要とする理由：
2020 横浜スポーツ学術会議の開催に際しましては、約 2,500 名の参加が予想され、開催に要する費用は 178,750,000 円と推計されます。
これらの諸経費は、学会補助金、参加費等で賄うのが基本ですが、個人参加者の負担にも限度があります。また、節約による経費削減につとめ、必要経費の圧縮をはかる方針ですが、その努力にも限りがあり、必要経費の相当額は関係諸団体や企業の寄付に頼らざるを得ないのが実情であります。必要経費 178,750,000 円のうち、50,000,000 円を寄付金により充当したいと考えております。
諸事多端の折から、誠に恐縮ではございますが、本会の実情と将来性をご賢察の上、何とぞ格段のご援助並びにご高配を賜りたく心よりお願い申し上げます。
なお、寄付金として各社が公表することに同意いたします。
7. 寄付金の払込方法：別紙寄付申込書によってお申込ください。
＜寄付振込先＞
銀行名：三菱 UFJ 銀行 支店：六本木支店（店番 045）
口座番号：0791589 種別：普通
口座名義：Yokohama2020
口座カナ：ヨコハマニーゼロニーゼロ
8. 申込先：2020年横浜スポーツ学術会議 事務局
（株）コンベンションリンクージ内
TEL：03-3263-8695／FAX：03-3263-8693
E-mail：yokohama2020-cl@c-linkage.co.jp
9. 申込締切：2020年9月7日（月）

FAX: 03-3263-8693

E-mail: yokohama2020-cl@c-linkage.co.jp

株式会社コンベンションリンケージ内

2020 横浜スポーツ学術会議 運営事務局 宛

※この用紙を郵送または FAX にて事務局までお送りください。

申込締切: 2020 年 9 月 7 日 (月)

寄付申込書

趣旨に賛同し、下記金額を 2020 年横浜スポーツ会議の開催資金として寄付いたします。

金 _____ 円也

年 月 日

フリガナ 会社名				
申込 御 担 当 者 連 絡 先	住所	〒	TEL	
			FAX	
	フリガ ナ 氏 名	様	部署	
			役職	
	E-mail			

【払込方法】 該当に○をつけてください。

学会の銀行口座を通して 年 月 日

{ 払い込みました。
払い込みます。 }

【領収書】 要 ・ 不要

【お振込先】

銀行名: 三菱 UFJ 銀行 支店: 六本木支店 (店番 045)

口座番号: 0791589 種別: 普通

口座名義: Yokohama2020

口座カナ: ヨコハマニーゼロニーゼロ